

2. 火山の概況

(平成16年3月25日 ~ 平成16年3月31日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。
火山活動度レベル(以下レベル)は2。

三宅島では噴煙活動が継続し、山頂付近で微弱な降灰が確認された。

阿蘇山では浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

霧島山では微動が発生し、噴気活動がやや活発になった。

桜島では噴火が発生した。レベルは2。

薩摩硫黄島では噴火が発生した。

口永良部島では微動が発生した。

諏訪之瀬島では噴火が発生した。

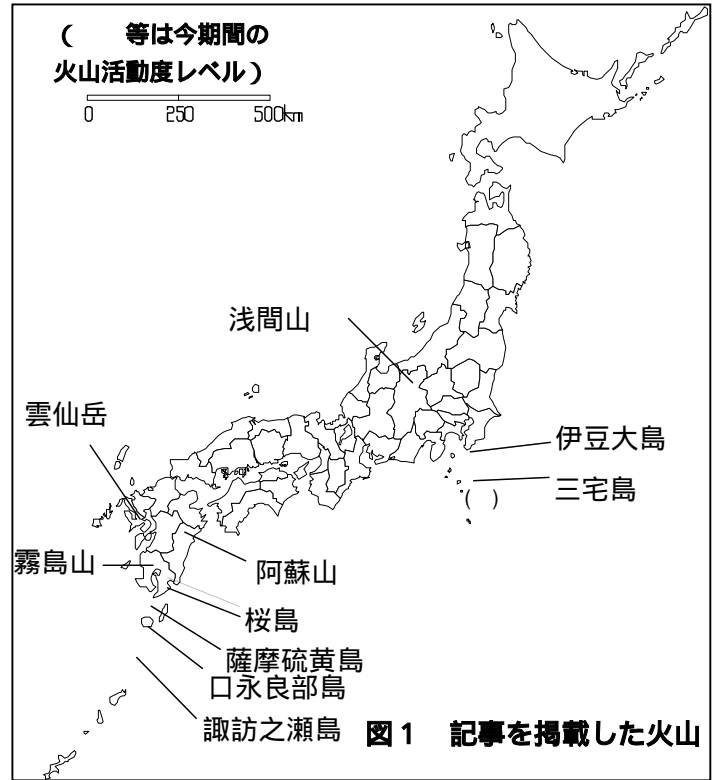


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島	十勝岳	吾妻山	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号										
10	2/26 - 3/3																		
11	3/4 - 3/10																		
12	3/11 - 3/17																		
13	3/18 - 3/24																		
14	3/25 - 3/31																		

注1 記号の意味
 : 噴火した火山
 : 観測データ等に变化があった火山
 : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
 : その他記事を掲載した火山
等の丸付き数字 : 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

(: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったと思われる。詳細は本文参照。)

浅間山 [地震・噴煙・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間は1日あたり7~16回観測され、増減はあるものの、次第に減少している。微動は観測されなかった(前期間1回)。

監視カメラでは、白色の噴煙が最高で火口縁上300m上がるのが観測された。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外線カメラでは、火口底に引き続き高温部が確認されたが、その範囲は次第に狭くなっている。

伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

三宅島 [地震・微動・降灰・噴煙]

振幅の小さいやや低周波地震の回数は、今期間 1 日あたり 11～37 回と減少したものの、やや多い状態であった。また、前期間に引き続き 29、30 日に連続微動の振幅が十数分間程度間欠的に増大する現象が見られたが、これに対応して、噴煙活動等、他の観測データに変化は見られなかった。

28 日 12 時 30 分前後の数十秒間、火口カメラ設置のため山頂付近で作業をしていた気象庁職員が微弱な降灰を確認した。降灰は機材に薄く降りかかる程度で、微量であった。山麓に設置された監視カメラからは有色噴煙は確認されず、降灰は山頂付近に限定されていたと思われる。この降灰が確認される直前に低周波地震が観測された。2002 年 11 月ごろまで数多くみられた振幅の大きい低周波地震が発生した際、まれに有色噴煙が火口縁上数百 m まで上がるのが観測されることがあったが、今回確認された現象は、それに比べると遥かに小さい規模であった。以前にも今回と同規模の低周波地震は時折観測されていたが、その際にも今回と同様の現象が発生していた可能性もある。

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上 900m であった。

GPS による地殻変動観測では、昨年 6 月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル 2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

31 日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約 3 割（前期間も約 3 割）で、湯だまりの表面温度の最高は 72（前期間は 76）、また火口壁の最高温度は 356（前期間 328）と依然高温状態にあった。湯だまり中央部で高さ約 5 m の小規模な土砂噴出を観測した他、湯だまりの南西縁では土砂噴出の跡が露出し噴気孔となり、その周辺部に土砂噴出や噴湯を多数観測した。

期間中、時折連続微動を観測した。また、孤立型微動は、1 日あたりの回数が 100 回を上回る日はなく、今期間 490 回と前期間(716 回)にくらべ減少がみられたが、依然として多い状態が継続しており、中岳第一火口の浅部の火山活動はやや活発な状態が続いている。

噴煙の状況は、白色の噴煙が最高で火口縁上 500m（前期間 600m）まで上がるのを確認した。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

雲仙岳 レベル 1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

霧島山 [噴気・微動・地震]

26 日に御鉢付近を震源とする継続時間 4 時間 15 分の火山性微動が発生し、それに伴って噴気活動もやや活発となり、白色の噴気が最高で火口上 800m まで上がるのを観測した。噴気活動はその後徐々に低下し、28 日以降は高さ火口上 100～200m と微動発生以前の状態で推移した。31 日に現地調査観測を行った結果、噴気が火口縁上 50～100m まで上がるのを観測した。

26 日の微動発生以降地震回数は若干増加傾向となり、28 日には日回数が 36 回に達するなど、やや活発な状態であった。

桜島 [噴火] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火は2回発生した(前期間噴火爆発なし)。今期間の噴煙の高さの最高は火口上1300m(灰白色)であった。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、今期間降灰は観測されなかった(前期間なし)。

薩摩硫黄島 [噴火・微動]

25日に灰白色の噴煙が火口上高さ600mまで上がっているのを観測した。

今期間のほぼ全体を通して、振幅の小さい連続微動を観測した。

口永良部島 [微動]

規模の小さな火山性微動を、30日に6回、31日に3回観測した(前期間1回)。

2月2日に多発して以降増減を繰り返している地震回数は、今期間は短時間に集中して発生することではなく、期間中の合計は16回と前期間(14回)に引き続き減少状態にあった。

諏訪之瀬島 [爆発・微動・降灰]

25日に爆発が1回発生した(前期間なし)。この爆発に伴う噴煙の状況は、夜間のため確認できなかった。

期間中、時折連続微動を観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25、26日に火山灰を含んだ噴煙が上がり、26日には集落(御岳の南南西約4km)で降灰があった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第166号 (1日2回発表)	25日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第179号	31日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第21号	26日 11:10	火山活動は引き続きやや活発。レベルは2。
霧島山	火山観測情報第16号	26日 22:00	御鉢付近で火山性微動が発生。
	火山観測情報第17号	27日 10:00	噴気活動がやや活発。
	火山観測情報第18号	29日 10:00	やや活発な活動が継続。
薩摩硫黄島	火山観測情報第2号	26日 11:10	やや活発な火山活動。
口永良部島	火山観測情報第18号	26日 11:10	火山性地震は減少してきている。